

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 年 月 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893100057		
法人名	株式会社 セントメディケア		
事業所名	グループホーム ひぬまの杜	ユニット名	2階
所在地	〒311-3124 茨城県東茨城郡茨城町中石崎1055		
自己評価作成日	平成27年4月6日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ひぬまの杜は自然の中にあり、四季折々の草花や木々の変化が感じられる環境です。利用者様の自立支援や個別ケアに力を入れ、その人らしく生活できるよう支援する一方で、ターミナルケアを希望されるご家族様にも柔軟に対応しています。 ご家族様や地域との交流を大切にし、来訪しやすいホームづくりを心掛け、地域の認知症相談窓口としても働きかけています。 災害対策では年に2回、自衛消防訓練を行い、内1回は地域を巻き込んだ訓練となっています。また、毎月、各ユニットごとに避難訓練を行い備えています。 介護は人です。良い介護が提供できるよう、職員が満足して働ける施設づくりに努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念を唱和して実践に繋げている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の新年会や祭り、催し等に参加している。また、施設内の行事を地域の回覧板でお知らせして参加を呼びかけている。今年のひな祭りコンサートでは近隣の有料老人ホームの方も招待した。今後も交流を深めていきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を開設しており、回覧等で相談の案内を告知している。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では利用者状況や行事報告を行い参加者などから意見交換を行っている。また、行事等で不都合を感じたことなどは相談して意見を頂き、改善するのに活かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂くことで顔馴染みの関係づくりができ、運営上や、利用者様の処遇上の相談がし易い関係である。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束についての具体的な例を取り上げた文書を配布して理解を深めて頂くと共に、身体拘束をしない工夫のポイント等を話し合う時間を設けている。また、勉強会や研修等に参加している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員に虐待に当たる行為の具体的な例を文書で配布して理解して頂いた上で防止に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現に後見人をたてた入居者がいるので、その方から学ぶことが多い。 今後、必要になってくる方も出てくる可能性があるため、制度の理解を再研修する必要がある。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面と口頭で説明している。 また、いつでも質問を受け付けていることも伝えている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、職員からも日頃の様子を伝えるが、その時、逆に家族の質問から要望やクレームとなり、それが意見を表せることになると思われる。入所して間もなくは多い。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書ノートをつくり、職員から意見や要望を出してもらえる環境にしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを活用し各自の目標を定め、目標に対し評価し、また、人事考課を行うことで、個人の評価を行っている。 職員の子連れ出勤やフレックス出勤（一部）を認めており、働き易い職場環境を目指している。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に取り組むことを目指しているが、なかなか機会がない。研修にも参加させたいが、人材不足で難しいことが多い。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	姉妹のグループホームひぬまとは常に交流している。月1回～2回、サービスの質上げのため合同で会議を行っている（定例会議）。また、他のグループホームの管理者と職員を交換して勉強会を考案中。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してすぐの方は職員が必ず寄り添い、傍にしているようにしている。また、本人が一番不安に感じる事などを傾聴し、安心して頂けるような関係づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、要望などを傾聴し理解し改善できる事は取り組んでいる。そのため少しずつ家族とも信頼関係が築けている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人が一番必要としている事を理解し、本人に無理強いしない支援に努めている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人とコミュニケーションを十分取りながら一緒に生活していく者同士の関係を築いている。 例) 昼食は職員が必ず利用者の中に入り、食事をする事で家族に近づく。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に見えた時などは職員に話しかけ易い環境づくりに取り組んでいる。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お彼岸、お盆には墓参りに外出して頂いたり、知人が面会に見えた時は家に居る時と同じように居室で一緒にお茶を召し上がって頂いて寛いでいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を理解し、利用者同士が過ごし易い環境づくりに努めている。また、相性の良い方との席にするなど考慮している。レクリエーションで関わり合えるよう促す等。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族、本人より連絡があった時は必要に応じ、相談、支援に努めている。ホームで看取った方の家族より、年に数回お礼の手紙が届いている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	世間話や本人の興味のある話をしながら利用者の思いや希望を取り入れている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活歴を会話の中や家族の情報から把握し居室に馴染みの物を置いたり、写真などを飾って自宅と同じように対応している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の拘りを大切にし支援している。また、職員同士で話し合い、その人の現状を把握するよう努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人と話し合った事を、職員間で話し合い、意見を反映し介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録を記入する事により変化、気づきから介護計画の見直しに活かしている。また、会議や朝の申し送り等で気づきや改善などを話し合っ情報共有している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事摂取困難な方に対しては、週に数回、点滴に通院したり、家族の希望に応じて対応している。 病院同行が困難な家族に対しては定期受診の対応また、報告を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	やはり家族が一番。なるべく面会や外出をお願いしている。また、知人等の面会もあり、近況報告された時などは安心された表情を浮かべている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人が希望されている医療機関を受診している。また、当ホームの協力病院（美野里病院）でもカルテを作り24時間受け入れができる体制を整えている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回勤務の看護師に利用者の状況を報告、相談して、適切なアドバイスを受けている。また、24時間オンコール体制になっており必要に応じて依頼ができる。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に利用者の情報を介護サマリーに記入して送っている。 退院時には看護サマリーにより情報を得ている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について家族と十分に話し合い施設で出来る事、出来ない事を理解して頂いている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について連絡網のチャートを見える所に貼っておき、職員にも携帯してもらっている（救命マニュアル）。また、1階と2階でピッチを使用し対応できるようにしている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、職員、利用者含め火災、地震を想定した避難訓練を行い、迅速に対応できるようにしている。 地域の協力を得られるよう連絡網を作成している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を訪室する時は必ずノックをして声かけをしている。 一人の時間が取りたい利用者には居室で過ごして頂いている。 また、入浴時は個別浴で対応し、プライバシーを尊重している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺った上で支援している。 無理強いしない支援を行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が「外に出たい」と希望される時は一緒に散歩に出ている。また、入浴時も入りたくない方などは別の日にするなど無理強いせず対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身で今まで使用していた化粧水などを使用して頂いている。 洋服は好みの服を自身で選んで頂いている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや下膳、食器拭きなどを一緒に行っている。また、職員と利用者が昼食を一緒に召し上がることで「これ美味しいね」と会話が弾んでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、食事状態（ミキサー食、刻み食、トロミ食）にしている。 水分量を記録することで足りていない方には工夫して摂取してもらうように努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後行っている。 一人ひとりに合わせ見守りや介助を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりに合わせ排泄パターンを把握し必要に応じてトイレ誘導を行っている。オムツの方も排便はトイレでしてもらうよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を把握して水分を多くしたり体を動かして頂いたりして予防を行っている（必要に応じ浣腸剤や下剤を使用）。また、お茶等が苦手な方は好みの飲み物で水分摂取してもらっている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者が入浴したいタイミングに合わせて、自分のペースでの入浴を楽しんで頂いている。入浴剤などを入れ、香りを楽しんでもらっている。また、本人の好みの温度等にも配慮している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に自由に居室に戻り休んで頂いたり、夜間も好きな時間に居室に戻って頂いたりしている。また、夜間良眠のために日中の活動や日光浴などを行っている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの使用している薬用書をケース記録に保存して職員全員がその目的や用法について確認している。また、便秘薬については体調や排便があった時には調整し対応している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに役割がある（洗濯物たたみ、布切り、新聞折り、食器拭き、掃除など）。また、天気が良ければ散歩や外気浴をしたり好きなテレビを観たりと個人の楽しみがある。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出たい希望があれば一緒に戸外に出ている。また、ドライブを計画し、お花見や食事会など季節に合わせて外出する機会を設けている。姉妹施設で行っている月2回のリハビリ体操にも参加している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>どうしてもお金を持っていたい方に関しては家族の同意を頂き、お守り程度（1,000円位）の額がお財布に入っている方もいる。買い物に出た時は好きな物を籠に入れてもらいレジでお金を渡すなど買い物した気分を味わう事もある。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族とお話できる方はなるべく電話口でお話してもらっている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やリビング内などに季節の鉢植えなどを置いたり、3月には雛人形、5月には鯉のぼり、12月にはクリスマスなどのデコレーションをして季節感を取り入れている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間であるリビングに一人掛けや二人掛け用のソファを置き、独りになったり、利用者同士がお喋りをしたりできるような空間がある。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には本人が使い慣れた布団やクッション、テレビなどを持ち込んで頂き、居心地よく過ごして頂いている。ぬいぐるみに囲まれている方もいる。各自、自分の部屋が一番落ち着くようだ。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内の廊下、リビング、居室には手すりが設置してある。催しは掲示板や廊下等に案内文を掲示して告知している。また、利用者の作品（書道やぬり絵など）なども掲示している。自分の部屋と分かるようプレートをさげるなど工夫している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない